

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu
蒼穹

2017.12 Vol.129



English Caféはじまる (詳しくはP.6をご覧ください。)

特集1 内定状況にみる
就職支援の成果 P.02

特集2 勢いを増す本学のグローバル化
個々にも広がる国際交流への関心 P.04

- 私立大学研究ブランディング事業に選定 P.07
- 第8回「松本大学地域貢献大賞」決まる P.08
- 男子サッカー一部、悲願のインカレ初出場! P.15 ほか

内定状況にみる就職支援の成果

今年度の就活生（2018卒）の就職活動も終盤となり、大学全体では例年通りの90%台後半の就職内定率に到達できる見込みとなりました。本学が就職において安定した数字を出し続ける背景には、学内一丸となって行ってきたきめ細やかな就職支援が良い影響を及ぼし合いながら機能していることが挙げられますが、中でも今回は、今年度成果が表れた取り組みをいくつか紹介します。

ゼミ担当教員と各種センターが連携 手厚いサポートで学生の進路を導く

全学就職委員長 根本 賢一

本学は2006年3月に第一期生となる卒業生を輩出して以来、高い就職内定率を誇ってきました。これは、本学を取り巻く地域の企業との様々な連携と、何よりすでに、社会で活躍する多くの卒業生が組織の中核的存在となり幅広く活躍していることで、企業から大きな信頼とさらなる期待を頂けたことが要因と考えています。本年は全国的に企業の採用意欲が高く、就活生にとっては売り手市場と呼ばれてきました。本学においても6月を皮切りに例年を上回る高水準で進路決定に繋がっていますが、全ての業種・形態が良いわけではなく、常時人気がある大手企業や金融、公務員、メーカー等の業界は例年よりも厳しいと言われていました。そんな中でも、難関企業に新たな採用実績が生まれたり、これまでの努力が実り合格を獲得できたりと、後輩たちに活躍の場を広げるチャンスを得られる、大きな成果が出ています。

現在、まだ活動中ではありますが、現役合格を困難とする「教員採用試験」や、「公務員採用試験」においても、複数名の合格者を出し、ここ数年取り組んできた「公務員試験対策講座」の成果を得ることに繋がりました。これらを実現する背景には、高い目標を持つ学生を育て導く各学科のゼミ担当教員の指導と共に、各種センター機能の連携が大きな役割を果たしていることがあげられます。キャリアセンターをはじめとし、教職センター、基礎教育センターなどそれぞれの専門スタッフによる手厚いサポートが、学生の進路を導く大切な役割を担いました。

また近年、キャリアセンターは、「個」への指導を強化し、決定に至るまでのそれぞれのプロセスを重視することで、学生自身の気付きと成長を促しています。たとえば、内定した先輩学生

による後輩への支援やサポートをこれまで以上に取り入れ、これが実践的な指導に繋がりが大きな成果を得ています。また、指導者となる社会に出る直前の4年生は、社会人になるための責任感と内定先に対する自信と尊厳を持ち、巣立っていきます。こうした「繋がりが」本学の伝統や文化となり、今後の就職活動に活かされ、常に地域に愛され続ける大学として歴史を刻んでいければと思います。



就職対策セミナーで、先輩学生から指導を受ける3年生

平成30年度教員採用試験に本学出身者14名が合格！ ～実を結んだ教職センターのバックアップ～

教職センター 教授 小松 茂美

本学では、将来、教職に就くことを目指して日々努力している学生の目標実現のために、全学を挙げて支援をしていますが、その中心的役割になっているのが、教職センターです。ここ数年は、教員採用試験を突破する学生が5名前後で推移していましたが、本年度は、14名合格（私立高校：飯田女子高等学校、エクセルン高等学校2名含む）という結果を残すことができました。そして、その中には、現役の学生5名が含まれています。

教職センターでの具体的な支援の内容は、「教員採用試験に向けてのモチベーションの向上、模擬試験の実施、面接対策、実技対策、模擬授業対策、場面指導対策」等々ですが、加えて、各校種（小学校・中学校・高等学校）の校長経験がある教員のサポートを受けられる体制が整っていることも、大きな成果に繋がっていると感じています。

また本学では、教職課程の卒業生の組織である「校友会」を構成することにより卒業後の

支援を行い、卒業生・教職員・在校生をつなぐ情報交換の場としています。

今後も、幅広い分野（小学校・中学校・高等学校の教諭、養護教諭、栄養教諭）の教員採用試験突破に向けて、支援体制、内容を充実させ、地域社会の人々との協働能力を備えた教員を養成することを目指します。



教職センター学習室にて



人間健康学部
スポーツ健康学科 4年
今井 南貴さん

長野県(養護教諭)に採用

高校生のときから保健室の先生に憧れて、養護教諭の免許が取得できる松本大学に進学しました。本格的に採用試験の勉強を始めたのは、3年生になってから。試験までの時間がなく短期集中だったので教職センターの学習室で、朝10時から夜9時頃まで勉強した時期もありました。学習室には参考書や先輩方の報告書が揃っていましたし、わからないことは教職センターやゼミの先生にすぐに質問できたことが心強かったです。配属が決まり夢が実現するのはもう少し先ですが、悩んでいる子どもたちに寄り添って、学校を楽しんでいると感じてもらえるお手伝いをしたいと考えています。

平成30年度採用公務員試験に16名(延べ19件)が合格

～開講4年目を迎えた公務員試験対策講座が大きく貢献～ 全学教務委員長 等々力 賢治

採用活動が短期間化した民間企業と異なり、長期間にわたる公務員試験もようやく終盤を迎えています。その中で、本学の平成30年度採用公務員試験合格者が、12月1日現在、例年を上回る16名(一名で複数合格した者がいるため、延べ件数では19件)となりました。若干把握できていないものもありますが、この数は、一昨年度の最終合格者4名、同じく昨年度の6名を大きく上回っており、くわえて、松本市、塩尻市、安曇野市などの上級行政職が少なくないことも注目されます。

このような成果を挙げることに大きく貢献したのが、正課外の「公務員試験対策講座」です。15名の合格者中8名が受講者ないしは、個人面接の指導・練習を受けた者であったことが、その何よりの証左です。講座は、4年前に、(株)LEC東京リーガルマインドの全面的協力を得て設置したものです。本学の教育の使命・目的である「地域社会に貢献できる人材の育成」を、地元自治体への人材輩出という形で具現化するとともに、受験生に対しても本学の魅力をアピールする材料の一つになるで

あろうことを、それぞれ予想し期待してのことでした。冒頭の数字は、それがようやく実りつつあることを示しているといつてよいでしょう。

最終的な合格者数は、長野市役所などの三次試験受験中の学生がいますので、もう少し増えるかもしれません。それにしても、これらの数字は、就職を目指す卒業年生約520名からすればまだまだわずかです。本学としては、さらなる講座受講者数と合格者数の増加を目指し、取り組みをいっそう強化していく予定です。



人間健康学部
スポーツ健康学科 4年
大塚 麻由さん

松本市役所に内定

行政での健康運動指導士を目標に、公務員試験に挑戦しました。公務員試験対策講座は毎週5限目の正課外の授業だったため、部活(女子ハンドボール部)やアルバイトとの両立が難しかったり、授業がkabって受講できない時もありましたが、冬休みの短期集中講座や試験直前セミナーなどの充実した補講を受講することで、カバーできました。大変な時もありましたが、合格したいという強い気持ちを先生方やキャリアセンターの方々から支えて下さり、合格につなげることができました。



総合経営学部
観光ホスピタリティ学科 4年
米持 翔さん

長野県警察に内定

2011年の長野県北部地震をきっかけに人の役に立つ仕事に就きたいと思い、公務員を目指しました。当初は参考書を使って独学で勉強していたのですが、4年生になって公務員試験対策講座を受講しました。フォローアップ講座では、公務員試験に必要な知識を一通り復習でき、わからないことはすぐに先生に聞けたので、とても効率的に勉強できました。わからないことをわからないままにするのではなく、先生にすぐに聞ける距離感が、公務員試験対策講座の大きなメリットの一つだと感じています。

松商短期大学部における金融業への就職支援

～16フィールドの学びを生かし金融系企業に堅調な実績～ 就職委員会 短期大学部主任 木下 貴博

松商短期大学部は、平成28年度卒業生の就職内定率が100%と、これ以上ない高い数値で学生を社会に送り出すことができました。さらに本年度の就職内定率についても12月14日現在、昨年同時期に比べ9.3ポイント上回る大変好調な数値で推移しています。これは地域経済の好転が第一の要因ではありますが、本学部におけるキャリア教育に加え、ゼミナール教員による手厚い個別指導により、学生へのサポートを充実させた成果と考えています。平成28年度の実績から業種別(10%以上)に進路をみますと、小売業29.5%、サービス業24.4%、製造業18.6%、金融・保険業12.8%となっており、学生が多様な進路を選択していることが伺えます。中でも、金融・保険業は、前年の6.6%(12名)から12.8%(20名)と倍増していることを受け、今回は、この金融業を志望する学生向けに用意された「金融スペシャリストプログラム」をご紹介します。

本プログラムでは、多くの資格取得をサ

ポートします。まず、金融業の個人部門に必要なファイナンシャル・プランニング技能検定(FP)は、就職活動が始まる前に3級を取得することを目指し、金融業に内定した後はさらに2級に挑戦します。また、多くの銀行、信用金庫、信用組合、JA等に勤務する人々が受験する銀行業務検定試験に備え、税務4級と法務4級の合格をサポートするゼミナールがあります。さらに、証券外務員2種の資格は金融業では全員が取得することが義務となっているため、

金融業の内定獲得後の2年生後期に資格対策をし、卒業までに取得することを目指します。

これらの資格取得が金融業への就職に有利だけでなく、それによる就職実績が後輩たちの学習意欲を高めることにもつながるといふ好循環を生んでいます。

今後も、この好調な就職活動状況を維持するため、保護者の皆様をはじめ地域企業とも連携を深めながら、学生支援により一層力を注ぐ所存です。

松商短期大学部 保護者就職説明会

11月25日、松商短期大学部1年生の保護者を対象とした「保護者就職説明会」を開催し、98組の保護者の皆様にご参加いただきました。本学の就職支援内容、今後の就職活動スケジュールほか、先輩学生の就職活動体験報告を交え、本学の就職支援体制や昨今の就職活動事情をご理解いただく機会となりました。また、午後はゼミ別の昼食懇談会の後、個別相談を実施しました。



説明会の様子

勢いを増す本学のグローバル化 個々にも広がる国際交流への関心

今年5月、本学は台湾の高雄市にある義守大学と交流協定を締結しました。この協定締結により、9月には本学の学生5名が義守大学の2週間サマープログラムに参加し、また10月には村瀬直美常務理事と住吉廣行学長が義守大学を訪問しました。本学のグローバル化は、徐々にではありますが着実に進んでおり、来年冬の「短期日本語プログラム」には、中国、台湾、マレーシア、アメリカ合衆国などから30名を超える方が参加する予定です。

そこで今回、本学の取り組みの実際を理解していただくために、サマープログラムに参加した5名と、村瀬常務理事、住吉学長との座談会を企画しました。学生からは、今回の海外留学の目的や留学で得たこと、海外留学の魅力などについて、大学側からは、本学の取り組みや海外留学への期待などについて聞きました。

(聞き手：松商短期大学部 学部長 糸井 重夫)



台湾 仏光山弘院記念館にて

言葉の壁にぶつかった時には、英語と中国語と、ボディランゲージで乗り切りました(太田)

まず君たちは、台湾への出発前にそれぞれの課題を設定していましたね。

小野 僕の課題は、日本との文化の違いを知ることでした。実際に行ってみてまず感じたことは、建物のスケールが大きいこと。台湾の国土はそんなに大きくなくても、ひとつひとつの土地が大きいので建物も大きいんです。

太田 私の課題は「台湾の人とコミュニケーションをとる」ということでした。台湾の人の話す言葉



が最初はわからなかったけど、英語と中国語、それにボディランゲージも交えて、通じるとうれしかったです。

内藤 台湾の人は、小さい頃から助け合いの精神を学ぶそうです。たとえ言葉が通じなくても、道を聞かれたらその場まで連れて行ってくれるなど、とても親切でしたし見

習いたいところだと思いました。留学したことで、日本のいいところと外国から見習うべきところを再認識できたと思います。

学長 君たちが帰国

する日には、朝の5時に空港までわざわざ義守大学の学生が見送りに来てくれたって聞きました。現地の人ももしっかり交流して、さぞかし充実した楽しい留学生生活を過ごしたんだろうと、うれしく思いましたよ(笑)

村瀬 そうそう。10月に学長と台湾に行った時にも、君たちが留学中にお世話になった李先生が、一人ひとりの思い出話を大切に話してくれました。

(一同) 泣けちゃうー!



言葉は完全じゃなくても、お互いがコミュニケーションをとって高めあえるなら、それは怖いことじゃない(一之瀬)

みんな、海外に行くのは初めてだった?

(一同) はい!!

留学に行く前と後と、気持ちの変化はありましたか?

一ノ瀬 最初は中国語をうまく話せなくて自信がありませんでした。台湾の学生は、当たり前ですけど中国語のネイティブスピーカーで、上手に中国語を話します。はじめは同じように中国語を話せないことにコンプレックスを感じていましたが、でも、義守大学で日本語を学ぶ現地の学生と話しているときに、自分たちだって彼らにとっては日本語のネイティブスピーカーなんだと気づいて。それから、言葉が完全じゃなくて通じないことがあっても、お互いがコミュニケーションをとって高めあえるなら、それは怖いことではないんだと思えるようになりました。



授業はすべて中国語で?

一ノ瀬 英語と中国語のみだったので苦労することもありましたが、本当にわからないところは、自由時間などに日本語が話せる台湾人の学生に聞いて補うことができました。



松商短期大学部
学部長
糸井 重夫

松商短期大学部
経営情報学科 1年
内藤 玲菜さん

松商短期大学部
経営情報学科 1年
一ノ瀬 結仁さん

松商短期大学部
経営情報学科 1年
太田 伶菜さん

小野 平日の午前中は3時間みっちり中国語の勉強をして、午後には観光に出かけたり習字や台湾のお守りを手作りする授業などもあり、語学の勉強だけでなく台湾文化を体で感じることもできるプログラムでしたね。

みなさんが起爆剤となって国際交流の輪が広がっていけば、あとは大人の出番です(村瀬)

いろんな経験をしてカルチャーショックも受けたり、凝縮された17日間を過ごしたと思いますが、今回の留学生生活を今後どんな風に活かしたいですか？

後藤 台湾に行く前は国内での就職しか考えていませんでした



が、留学後は海外への勤務にも興味が出てきました。キャリアセンターを活用して、国内だけでなく海外での仕事も探し始めています。

太田 私は、海外の人とコミュニケーションをとりたい。留学に行ったことで日本語だけじゃだめだなと痛感しました。積極的に外国語の授業をとったりして、自分から言語を学びにいきたいです。

学長 言葉の細かい使い方は、彼らと付き合っているうちに経験で学べます。皆さんは、その一歩を踏み出していますね。私がそれ以上に大切だと感じるのは、彼らと付き合うには、英語を理解する以前に日本文化を知っておく必要があるということ。海外の友人が日本に来ると、自分の知らない日本文化のことについて質問されることが常です。例えば、神社に連れて行くと狛犬の意味とかね。みなさん、正確に答えられる自信はありますか？

(一同) …。(笑)

ともあれ、一人ひとりに外国へ向けた関心が出てきたのはうれしいことです。学長、常務理事にお聞きしますが、これからの松本大学のさらなる国際化に向けて、どのようにお考えですか？

学長 喫緊の課題の一つとして、外国からの留学生が来てくれた場合に専用の宿泊施設がないことが挙げられます。

村瀬 まず、みなさんが起爆剤となって国際交流の輪が広がっていけば、あとは先生や私たちが察を作るなどのハード面を整えていく。僕は皆さんたちに、今感激していることを忘れないで、この留学の経験を一人でも多くの人に伝えてもらいたいと思います。そして提携大学から留学生が来たときには、おもてなしをしてコミュニケーションをとって、一人でも二人でも仲間を増やして国際交流の輪を広げて、松本大学をさらにグローバル化させていきましょう。期待しています。

村瀬理事には、奨学金という形で本学のグローバル化にお金の面から支援していただいています。

村瀬 学生が行きたいと思う国や地域があれば、われわれがお手伝いします。ぜひいろんな経験をして、それを自分の将来に活か



ていただきたい。そういう人が増えて、大学も、松本も、長野県も良くなっていけばいいと思っています。

一歩踏み出す勇氣

学長 外国にはまず、実際に行ってみることが重要だと思います。知らない世界に足を踏み出すことには勇氣が要りますが、異文化を体験したり今まで会ったこともない国の人たちと話してみたら、なんだ同じ人間じゃん、という意味でのカルチャーショックを受け、自身の世界が広がる。自分の可能性も広がる。学生の間でぜひ、そういう経験

をたくさんしてもらいたいですね。

1年生にアンケートを行ったところ、留学に興味のある学生は、約半数いる。チャンスがあったら行ってみたいと。しかし、多くの学生は経済的な面、治安への不安などがあって、国際交流に二の足を踏んでいるようです。

一ノ瀬 私が留学に興味を持ち始めたのは、糸井先生の授業がきっかけでした。その時にちょうど隣に座っていたのが今回一緒にプログラムに参加した太田さん。授業が終わってその足で、二人で糸井先生に留学のことについて質問に行きました。私の場合は、一緒に行動できる仲間がいたからこそ、一歩踏み出せたと思います。

学長 ずっと前までは、興味はあっても勇氣が出ない人がほとんどでしたね。外国に行くことや留学に挑戦してみることがそんなに特殊なことではなくなってくれば、グローバル化はさらに加速していくでしょう。今は過渡期なのかもしれません。

一ノ瀬 周りの意識も変わっているのを感じます。旅行する友人も増えているし、パスポートの取り方など実際に海外に行くために必要なことなど聞きにきてくれる子もいて、国際交流の輪が広がっているのを感じてうれしく思います。

来年のウィンタープログラムには、中国・台湾・オーストラリアなどからたくさんの留学生たちが松本大学にやってきます。そこで留学生たちと交流して国際交流に



興味をもってくれる学生がもっと増えるといいですね。留学生のサポートをしてくれる学生を募集しています。

村瀬 ちょっとしたタイミング、ちょっとしたチャンスで人生は変わります。みなさんも世界で活躍する人間になるかもしれません。これからが楽しみです。



学校法人 松商学園
常務理事
村瀬 直美氏

松商短期大学部
商学科 1年
後藤 悠介さん

松商短期大学部
商学科 1年
小野 賢治さん

松本大学・松本大学松商短期大学部
学長
住吉 廣行

本学では、2013年から2018年までの5か年に亘る中期目標・計画における国際交流に関する目標として①国際化する社会の進展に対応②国際関係教育の充実③語学教育の充実④海外提携校の増加と留学生受け入れ、の4点を掲げています。

2018年までの中期目標終了まで残すところ1年余りとなったいま、その目標への今現在の取り組みについていくつか紹介します。

チェコ-日本国際会議出席と パルドビツェ大学訪問

松本大学 学長 住吉 廣行

「The 20th Czech-Japan Seminar on Data Analysis and Decision Making under Uncertainty」と題する国際会議がパルドビツェ市で開催されました。昨年は日本側の主催で、私の高校時代の同級生である大会運営委員長の「地方で開催したい」という要望があったことから、本学を会場に開催されました。遠来の参加者からは日本式のホスピタリティが大いに喜ばれ、こうしたご縁で今回、招待状をいただく運びとなったのです。

本学が交流協定を結んでおり、以前から「学長も一度は来て下さい」と招請されていたパルドビツェ大学にも表敬訪問ができる稀有の機会だと考え、あちらに共同研究者がいる観光ホスピタリティ学科の益山代利子教授と一緒に出かけました。会議はもちろん、夜の晩餐会も趣向が凝らされ、会話と共にチェコの文化も楽しむことが出来ました。その他にもパルドビツェ大学の化学工学部・物理化学科にジリ・マリク学科長を訪ね旧交を温めると共に、過去に留学を受け入れて



修復学部にて、クプカ氏(右)とジョリーさん(左)

いただいた2名の件に感謝しつつ、今後も希望者が出た場合の手続き等について話し合ってきました。

翌日には、クプカ新学部長の案内でリトミツェル市に赴き、同大の修復学部の見学をさせていただきました。芸術系学部とばかり思い込んでいましたが、想像からは程遠い科学的な修復手法であったことに新たな驚きを感じました。

プラハの街を散策できたのは、飛行機の関係で最終日に同市に一泊した時だけでしたが、一週間余りで多数の仕事をこなし、十分な成果をあげることが出来ました。

国際記憶円卓会議 開催

学校教育学科 教授 守 一雄

10月15日、本学の大学祭に国際色とアカデミックな彩りを加えるため「国際記憶円卓会議」と題した国際シンポジウムを企画しました。2年前から、複数の目撃者間の記憶の同調に関する国際比較研究を世界11カ国の認知心理学者と共同で行っており、トルコ・ポーランド・インド・ニュージーランドの研究者を招く機会が得られたこともきっかけの一つです。本学の学生には国際学会の雰囲気を感じてもらい、外国からの参加者には松本大学の大学祭を楽しんでいただくことができ、双方に有意義な時間となりました。



国際色豊かな国際記憶円卓会議

松本大学 English Caféがスタート!

English Caféは、日本人学生と外国人留学生、そして外国人教員との交流を通して学内で異文化体験や英語を活用する機会とし、主体的な学びを育むことを目的に、11月より開設しました。初回となった11月2日には7号館コモンルームに外国人留学生と学生約30名が集い、賑やかに開催されました。

英語での交流を楽しみたい学生、海外文化に興味のある学生、留学に関心のある学生などが、予約不要で気軽に参加できます。2017年度後期は4回程度実施する予定で、多くの学生の参加を期待しています。



外国人教員と和やかに談笑

オーストラリア短期海外研修

学校教育学科 准教授 和田 順一

8月13日から28日まで15日間の日程で、連携協定校である湘北短期大学とともに総勢46名の学生と、オーストラリアのニューカッスル大学へ短期海外研修に行ってきました。海外が初めての学生もあり、緊張した面持ちで松本大学を出発しました。

ニューカッスル大学に到着してしばらくし

た後、ホストファミリーが学生を迎えにきました。学生達は少し心細そうではありませんでしたが元気に挨拶をし、それぞれのホストファミリー宅へ向かいました。翌日より授業が始まり、授業や様々な活動を大学やその近郊で行いました。最初は緊張していた学生も、徐々に授業や英語に慣れていきました。また

オーストラリア人の温かな人柄にも助けられ、多くの経験を重ねあつという間に研修の終了がやってきました。帰国の際には、別れに涙したり、日本に帰りたくなったりするほどオーストラリアに慣れていました。これらの貴重な経験は、今後学生が国際的に行動していく際にも、また日常生活にも大変役に立つものとなるでしょう。



アボリジニの文化を体験するフィールドワークに参加

平成29年度

私立大学研究ブランディング事業に選定

テーマ:健康づくりを核に自治体・企業・医療機関と連携して進める「元気な地域づくり」大学

人間健康学部 学部長 等々力 賢治

去る11月7日、文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に、本学が申請していた事業プランが選定され、今後5年間にわたって助成を受けることになりました。昨年度から始まった本事業は、従来の教学改革中心のものとは異なり、研究を柱に据えたところに特徴があります。文部科学省は、各大学が将来ビジョンを明確にしつつ、研究をベースに事業を実施・推進し、「他に抜きん出た」ブランド大学に構築していくよう支援するものです。

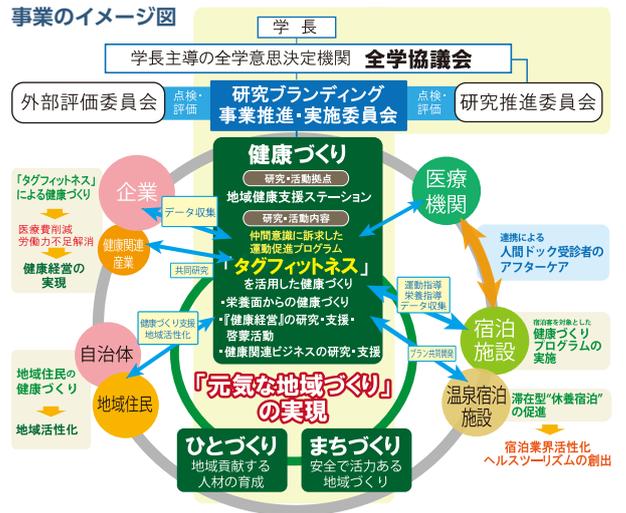
本学が申請した「地域の経済・社会、雇用、文化の発展に寄与する」ことを目指すタイプAには、123大学の応募があり33大学が(26.8%)、また、人文・社会系に限れば80大学から18大学が選定(22.5%)されました。

本学の事業プランは、地元自治体・企業、医療機関などと連携して、健康づくりを企業で働く現役世代にまで広げ、企業と従業員の健康リスクを軽減し、医療費や健康保険料の抑

制・削減を図ろうというものです。類似の取り組みは、ここ数年、(株)池の平ホテルやエアウォーター(株)といった企業と個別には進めてきていますが、それをより大規模に展開し精緻な研究成果を得られるように取り組みたいと考えています。また、関連するヘルスツーリズムを企画・実施して宿泊施設利用者を増加させることや、健康づくりに関連するソフトや機器類などの開発と、それらを商品とする事業化や起業なども視野に入れて取り組みを進めます。そうしたことが、総体として「元気な地域づくり」に繋がり、推進することになるはず。このように、本学の事業プランは、一つの「社会実

験」であり挑戦的なものです。近々、本学ホームページに事業専用ページを設け、情報発信に務めていく予定です。ご覧いただき、興味・関心を持たれた方は遠慮なくお問い合わせください。お待ちしております。

事業のイメージ図



教員育成フォーラム開催

『18歳からの教員育成

～21世紀型能力を見据えた今日的教員育成と教員育成～

学校教育学科長 岸田 幸弘

松本大学教育学部開設記念フォーラムを、昭和女子大学との共催で11月26日に本学で開催しました。大学における教員の「養成」と教育委員会による「採用」、そして定年まで続く「研修」の一体改革を見据えたテーマを掲げ、午前中は現職教員による実践発表(徳永典子氏による小学校英語と内川才氏による特別の教科道徳)と講演(文部科学省の動向を本学の武者一弘教授に、長野県教委の教員育成指標については県教委の佐倉俊氏に)が行われました。

午後は現代教育研究所所長の友野清文氏の進行によって、「これからの学校教育を担う教師をどう育むか?～養成・採用・研修の一体改革のあり方を問う～」と題してシンポジウムが行われました。前出の佐倉俊氏、内川才氏、武者一弘教授の他、緩利誠氏(昭和女子大学現代教育研究所副所長、カリキュラム論)和田田順一准教授(松本大学、英語教育論)をシンポジストに加え、それぞれの立場から教員の養成やキャリアアップについて議論を交わしました。フロアからの質問や意見も多く出され、大変充実したシンポジウムとなりました。

長野県内外から保育士、小中高等学校の先生方、教育委員会関係者、総合教育センターの関係者、そして昭和女子大学と松本大学の教員と学生など、75名の方にご参加いただき、盛況のうちに閉会となりました。



活発な議論が展開したシンポジウム

地域が求める人材育成を目指して 第2回APフォーラム

「教育手法の改善とその評価(I)」開催

松商短期大学部 商業科長 山添 昌彦

松本大学松商短期大学部では、平成28年度に採択された「文部科学省大学教育再生加速プログラム(AP):高大接続



パネル・ディスカッション

改革推進事業」の取り組みの一環として、今年度2回目となるAPフォーラムを9月12日に本学で開催しました。当日の午前中はあいにくの雨模様でしたが、全国から大学、高校、企業関係者および学内教職員が多数集まり、わが国の高等教育における教育手法の改善とその評価について活発な議論が行われました。

当日は京都大学高等教育研究開発推進センターの松下佳代氏(同大学院教育学研究科教授)による講演「大学におけるパフォーマンス評価の理論と方法～何のためのルーブリックか～」に始まり、APの実践事例報告として、比治山大学・比治山大学短期大学部と松商短期大学部の取り組みが紹介されました。そして、最後に上記3氏をパネリストとして「教育手法の改善とその評価～アクティブラーニング等の評価にむけて:『パフォーマンス評価』～」についてのパネル・ディスカッションが行われ、講演および事例報告に関する質問に応えながらの活発な議論が展開されました。

今回のフォーラムがパフォーマンス評価に対するそれぞれの大学の取り組みのさらなる進展につながれば幸いです。

第8回「松本大学地域貢献大賞」決まる

地域に根ざし、地域で活躍できる人材の育成を目指す本学では、学生のさまざまな地域活動を多くの方に知っていただくとともに、その活動を支援・推進する目的で「地域貢献大賞」を設けています。今年も大学祭「梓乃森祭」でプレゼンテーションが行われ、大賞をはじめ各賞が決まりました。

地域貢献大賞（学長特別賞）

地域再生プロジェクト

地域再生プロジェクトは、各々の地域社会が直面している様々な課題解決に向けて、地域と支援団体が一体となり取り組む活動です。尻無浜ゼミはその中で並柳再生プロジェクトの取り組みに携わっており、このたび、子ども学習支援「なみカフェ」の運営と子どもを取り巻く生活環境へのアプローチが評価されての受賞となりました。

子ども学習支援のノウハウは、東日本大震災における宮城県石巻市大街道小学校での5年間の経験で培われたもので、梓乃森祭でのプレゼンの際、学生は、そのノウハウを発展的に活かした点を強調しました。また、多くのプロジェクトがそうであるように、このプロジェクトにもNPO法人などの支援団体が多く存在し、地域と一緒に課題に取り

組んでいます。その支援団体のあり方をゼミでは地域福祉の観点から支援しており、地域活動の難しさも明らかにしました。

実はゼミの取り組みとしては3年目の活動であって、発表するに当たっては、これまでの実績も含め活動の振り返りを行う良い機会になりました。大学での学びがあり、学びによる実践が展開され、在学中に実践を評価する機会までも与えられることで、さらに客観的な視点が養われることに期待し

並柳再生プロジェクト（尻無浜ゼミ）



目録を手にし受賞を実感、喜ぶ学生たち

ます。大賞受賞により卒業論文へ向かう学生の姿勢は半端なく改善され、今や、私がついていけないほどの勢いを感じています。（観光ホスピタリティ学科 教授 尻無浜 博幸）

エプソンユニオン賞

子どもの健康指導を考える 学校教育活動支援プロジェクト

健康教育研究会（岩間ゼミ・中島節子ゼミ）

2010年度から岩間ゼミ、中島節子ゼミで実施している学校教育支援活動に対して、エプソンユニオン賞を授与していただきました。この2つのゼミは保健体育科と



薬物乱用防止講座の一コマ

養護教諭の教員養成を主な目標としているゼミで、“子どもの健康”をキーワードに、相互に補完し合いながら活動を展開しています。

この活動は小学校から高校まで幅広い学校現場で薬物乱用防止講座や性教育などを実施しており、子ども達にとってはお兄さん、お姉さんが身近にすることで、活発な学習となっています。また、実施校の先生方からも感謝とともに学生の教授姿勢と内容の確かさを評価いただいています。さらにそれは、学生にとっても貴重な学校現場経験として、実践力の向上につながる重要な活動であり、まさに本学地域貢献の基本であるWin-Winの関係です。今後はそれを越えるTotal Winの関係づくりを目指したいと思います。

（スポーツ健康学科 教授 岩間 英明）

ものぐさ太郎賞

けやきでつなぐ松本駅西地区における 緑と景観を守るまちづくり

松本大学けやきプロジェクト（白戸ゼミ・向井ゼミ）

松本市渚地区には、市指定の保存樹である十数本の榎があります。この榎は、長年にわたって河川に囲まれた地域の地盤の安定化や洪水被害の防止に役立ってきましたが、周囲の宅地化に伴い、落葉が近隣住宅の樋を詰まらせる事からトラブルの種になっていました。そうしたことから住民の依頼を受けて、本プロジェクトが始動したのです。



保存樹の榎の歴史を学ぶフィールドワーク

プロジェクトではまず、近隣小学校の協力を得ながら落ち葉拾いを小学生と一緒に、自然体験学習の機会としました。榎にふれて笑顔になっていく小学生の姿に地域対立が次第に和らぎはじめ、榎の下で「けやき祭り」や「寺子屋」を企画できるまでになりました。そうした活動の積み重ねの結果、住民の自主組織である「緑と景観を守る会」が発足。本プロジェクトは地域の分断を乗り越え、榎のもつ価値を再評価し、榎と住民とが共存できるあり方を模索するプロジェクトとなりました。

（観光ホスピタリティ学科 専任講師 向井 健）

同窓会長賞

あるぷすタウン

～ 子どものための子どもだけの街 ～

地域づくり考房「ゆめ」

「あるぷすタウン」は、松本大学に1年のうち2日間だけ現れる「子どもたちがつくる仮想の街」です。学生と社会人による実行委員会で企画し、多くの企業の協力により職業体験の場が設けられ、高校生や大学生



定例会を重ねて、準備に励む実行委員会

による当日ボランティアに支えられ、昨年度は245名の子どもたちを迎えました。学生は、協力頂く企業と直接コンタクトをとったり体験企画と一緒に考えたりすることで、コミュニケーション力や主体性、計画力などを身につけました。学生も社会人として成長できる活動となっています。

今年度は、昨年度のアンケートから良かった点を伸ばし、改善が望まれる点を明確にして準備をしています。職業体験だけの場ではなく、仕事で得た賃金を、街で消費するといった社会の仕組みを体験してもらおうと特に頭を悩ませています。今年度開催予定は、2018年2月11日、12日です。ご期待下さい。

(地域づくり考房「ゆめ」 運営委員長 廣瀬 豊)

後援会長賞

2017年度「おいでよ♪ 松大健康教室」

健康栄養学科3年

健康栄養学科3年生の栄養教育実習の一環で、地域の方々を対象に実施した「おいでよ♪松大健康教室」で地域貢献大賞にエントリーしました。健康栄養学科1期生のときから



健康や栄養についてわかりやすく講義

少しずつ形を変えて実施してきてきたものです。今年は、授業で検討したプランニングに基づいて、寸劇をとり入れた参加型講義やパワーポイントと試食を組み合わせた講義など合計14講義行い、地域の皆様に健康づくりのヒントをプレゼントしました。終わった後の学生の晴々とした姿が印象的で「エントリーしてみたかどうかしら?」と勧めました。発表をしてくれた2名もこの教室で学んだことを多くの皆様に伝えたいという思いが強かったようで意欲的に引き受けてくれました。ゼミナールの活動ではなく、通常の授業形態での受賞は初めてではないかと思いますが、賞をいただいた誇りを忘れずに、成長していってほしいと思います。

(健康栄養学科 教授 廣田 直子)

学生委員長賞

ええじゃん栄村 ～ 栄村の地域支援 ～

地域づくり考房「ゆめ」

ええじゃん栄村は、2011年3月12日に発生した長野県北部地震で被災した栄村を応援しようと活動を行ってきました。栄村のことを多くの人達に知ってもらおうと、地域の山菜(イタドリ)のレシピ集



栄村収穫祭での出店・交流

を作成したり、農林水産省の開催する「食と農林漁業大学生アワード2016」に出場してPRを行ったりしてきました。

6年目を迎えた今年度は、学生たちがもっと栄村のことを知り自分たちの活動を見直したいと考え、栄村副村長・役場職員の方や、社会福祉協議会の職員の方々と話し合いを行いました。そして復興はほぼ終了していることを知り、地域文化や地域住民と関わりながら、地域の支援を活動目標に活動することになりました。「野々海開き」に参加したり、梓乃森祭で栄村職員と社協職員の皆様と一緒に栄村のPRをしたり、翌週には村で行われる収穫祭に参加したりと住民との交流を深めています。(地域づくり考房「ゆめ」 運営委員長 廣瀬 豊)

大学祭実行委員会賞

糖尿病レシピ集作りの過程

藤岡ゼミナール3年

研究室が病院と協働で開催している糖尿病青空教室の昼食会は8年目を迎え、これまでの活動の集大成として、今年は「時短・簡単・節約レシピ」集を完成させて配布しました。



完成したレシピ集を手に集合写真

これは、患者会の会長より頂いた「高齢者でも簡単に調理ができて、お金をかけない料理を教えてください」との要望に応えるために、2年越しで取り組んだものです。昨年はまだ改良の余地があり、完璧な内容に仕上げてお届けしたいという私の願いと、いち早く患者様に届けたい学生の思いが対立したこともありましたが、先輩の無念を後輩が引き継ぎ、晴れて完成したレシピ集を手渡した際に会長は「初めて自分の要望が聞き届けられた、人生最良の日だ」と、心の底から喜ばれていました。患者様の人生に花を添えた卒業生及び在学生の栄誉を称えと共に、これから卒業生にレシピ集を手渡せる日を楽しみにしています。

(健康栄養学科 専任講師 藤岡 由美子)

〈地域貢献大賞審査員〉

- セイコーエプソン労働組合 書記長 吉澤 弦様
- 新村公民館長 関 成任様
- 松本大学学長 住吉 廣行
- 松本大学同窓会長 小島 恵子様
- 松本大学全学学生委員長 矢崎 久
- セイコーエプソン労働組合 副書記長 松山 茂様
- 松本大学後援会長 伊藤 義久様
- 松本大学学友会前学祭局長 岩垂 隆司

COC+学術講演会 「慢性腎臓病(CKD)関連の食事、生活指導」開催

健康科学研究科長 山田 一哉

10月6日、COC+特別講演会「慢性腎臓病(CKD)関連の食事・生活指導」を開催しました。講師は、大阪大学キャンパスライフ健康支援センター長の守山敏樹氏にお願いしました。健康栄養学科の1,3年生を中心に、学生、卒業生、一般の方ならびに教員も含めて約200名の参加をいただきました。

守山氏は、腎臓内科をご専門とされている先生です。講演ではまず、尿の生成に関わる腎臓の生理学についてお話がありました。次に、慢性腎臓病(Chronic Kidney Disease; CKD)の病因について話があり「CKDは自覚症状がほとんどないのが特徴で、悪化すると腎不全を引

き起こし最終的には透析を行わなければならなくなる」とのことでした。そのために、血液や尿の検査値をもとにCKDの進行状況を常に把握し、発症初期には主に心血管疾患を、後期には腎不全を防ぐことをねらいとした治療を行っていく方針であることも話されました。そこで必要になるのが日々の食事管理であり、初期には、高血圧予防のための塩分摂取と体重コントロールが、後期にはたんぱく質やカリウム・リンの制限が重要であると話されました。また、管理栄養士として適切な食事指導にあたることで、フレイルやサルコペニアを予防して寝たきりを減らしていくことができると話されました。その

ためには、学生のうちから臨床栄養の専門的知識をしっかりと習得しておくことが重要だとメッセージもいただきました。

一人でも多くの学生が自分の目指すべき管理栄養士像の一例として今回の講演を位置づけられたとしたら、企画者として幸甚です。



「松大生と学ぶ親子プログラミング教室」 安曇野市で大盛況のうちに終了

総合経営学科 教授 室谷 心

11月25日、26日の2日間、安曇野市豊科交流学習センター「きぼう」において、小学生向けプログラミング教室を開催しました。この教室は、安曇野市からの委託を受けた松本大学COC活動の一環で、プログラミング教室と物理コンピューティング体験コーナーの2本立てになっており、プログラミング教室を総合経営学部で情報の教員免許を目指す学生たちが、体験コーナーを松商短期大学部矢野口ゼミの学生たちがそれぞれ担当しました。

「まつもと広域ものづくりフェア」で毎年開講しているキッズプログラミング教室同様

に、子供向けプログラミング環境Scratchを使って、学生それぞれが工夫して作ったオリジナルの教材でゲームプログラミングを教えました。

小学校へのプログラミング教育の導入やNHK教育テレビの影響が、多くの方が興味を持って下さり、当初80名の予定を100名まで参加者を増やしましたが、抽選にもれた方が大勢出てしまったのが残念でした。

2日間にわたって開講した10のクラスは、いずれも真剣なまなざしの子どもたちの熱気であふれ、すべてのクラスで全員がプログラムを完成することができました。先生役を務めた学生たちも、「楽しかった」という子どもたちのアンケートの回答に、準備の苦労も忘れて感激していました。

「実際に情報を教える」という貴重な機会を学生に提供して下さった、安曇野市教育委員会に改めて感謝いたします。



プログラミングソフト「Scratch」を使ってゲームを制作

今年は驚きをテーマに 「一日限りのレストラン」

健康栄養学科 専任講師 成瀬 祐子

「一日限りのレストラン」を9月17日に本学で開催しました。今年は健康栄養学科の1～4年生44名が参

加し、驚きのある料理の提供をコンセプトに、見た目の楽しさやワクワク感を盛り込んだ学生ならではのメニュー構成に仕上がりました。また、今年はい実際のレストランで活躍されている総合経営学部の卒業生を講師としてお招きし、ホール担当の学生達を直接指導していただくことができました。そのおかげで、学生達も自信を持って堂々と接客できていたように思います。



接客指導の後、料理を提供する学生

まつもとシニアカレッジ 開催

管理課長 赤羽 雄次

地域で育む「健康寿命」をコンセプトに、シニア世代の方が「健康」や「趣味」などに関する知識を学ぶ「第5回まつもとシニアカレッジ」を10月29日に開催し、さまざまな分野の13講座を延べ1,000名余が受講しました。

本学からは各教員の専門分野に関係した4講座を開講し、受講生は熱心に聞き入り、大変満足した様子でした。地域と地域社会そして人の結びつきを強くするイベントとして、関心の高さがうかがえました。



人間健康学部 健康栄養学科 水野尚子助手の講座



話と和と輪、想像と創造の空間 地域づくり考房『ゆめ』



地域づくり考房『ゆめ』は、学生が大学での学びを活かして地域と連携し、地域の課題解決に向けて主体的に取り組む活動を支援しています。

「◎いただきます!!」プロジェクト サクスレレシピ集とひと工夫レシピを活用した活動

「◎いただきます!!」プロジェクトは、食品ロス削減のための活動に取り組んでいます。今年度の活動は松本市と協力して考案したサクスレレシピ集を活用し、9月5日には中山小学校において、レシピ集の中からブロッコリーの茎を混ぜた「蒸しパン」とかぼちゃの煮物をアレンジした「かぼちゃミルクもち」を作りました。メンバー8名が指導者役になって、5、6年生の児童と、食品ロスを学びながら残り物や野菜をまるごと使った調理実習を行いました。

最初は緊張していた児童も「難しいと思っていたけど簡単だった」「とても楽しかった。他の料理も教えてもらいたい」「家に帰って家族と一緒に作りたい」など笑顔あふ

れる楽しい実習ができました。

また9月24日には、10月末に松本市で開催される「第1回食品ロス削減全国大会」の周知・啓発を図るために東京・銀座NAGANOに赴きました。6名のメンバーが「食べもの"もったいない"教室」として、食品ロスを減らす工夫をしたレシピの中から、松本産の



中山小学校の児童との調理実習



学生が銀座NAGANOでプレゼン

農産物を使った試食品5品計60食分を作りました。

イベントに参加された方は、「学生が食品ロスに取り組むことは、とても嬉しい」「今まで廃棄していた野菜が、こんなに美味しく食べられることに感激です」と話されていました。2016年に松本市と共同制作したサクスレレシピ集と松本大学で発行した「ひと工夫レシピ」は、参加した大勢の方に今までの食生活を見直すきっかけづくりになったのではないかと思います。

(地域づくり考房『ゆめ』職員 山岸 勝子)

第51回梓乃森祭 ゆめひろば

地域づくり考房『ゆめ』では、10月14日、15日に開催した第51回梓乃森祭で、学生たちの活動成果の展示とともに、学生と地域の方々でつくる交流ひろば『ゆめひろば』を企画しました。

今年度は、新村地区の婦人グループ「マーブルの会」によるちらし寿司・おやきの販売と湯茶サービスの無料お休み処、「松本市消費

者の会 波田地区」による不用食器のリサイクル活動の様子をパネルにした展示および不用食器の無料配布、「松本市環境政策課」による食品ロス削減への取り組みを紹介したパネル展示、「森のこびと」「第2コムハウス」によるパンやクッキーなどの販売コーナーに、学生10名が協力し運営されました。

また、新たな取り組みとして、学生プロジェクト「ええじゃん栄村」にご協力いただいている下水内郡栄村役場・栄村社会福祉協議会の議員をお迎えし、栄村産そばの実を使った煎餅の試食提供も行われました。学生、教職員のみならず、地域の皆様や卒業生も多数訪れていただき、賑やかな雰囲気での交流ひろばとなりました。

この他、「上高地線応援隊」によるプラレールで遊べるコーナーや、松本市のマスコットキャラクター・アルプちゃんの登場もあり、小さなお子様連れの方にもお楽しみい



「上高地線応援隊」によるプラレールで遊べるコーナーただけの内容となりました。

ご協力いただきました地域の皆様からは「松本大学や学生の様子をじかに知ることができてよかった」「手伝ってくれた学生さんたちと打ち上げをしなきゃね」といった感想が寄せられ、梓乃森祭をお楽しみいただきながら本学の理解を深めていただいたように思われます。

『ゆめひろば』は2005年に始まり、今年で12回目となりました。今後も、新村地区をはじめとする地域の皆様からのご協力のもと、本学ならではの大学祭企画として継続・発展していければと思います。

(地域づくり考房『ゆめ』職員 上川 由香里)



マーブルの会のみなさんと学長とで記念撮影

地域の健康づくりを支援する 地域健康支援ステーション



地域健康支援ステーションでは、地域からの依頼を受けて健康づくりの支援やメニュー提案など実践的な活動を行っています。最近の活動をご紹介します。

栄養面での健康づくり支援活動

管理栄養士スタッフ 飯澤 裕美

松本山雅FC「スタめし」の 新商品を提案・販売しました

10月7日、松本山雅FCのアルウィンでのホーム戦で、学生が提案した「スタめし」が販売されました。8期目となる今年は健康栄養学科1,2年生10人が取り組み、5品が商品化されました。



サンドイッチ「ガンズくん」とロアックくん」を販売

学生たちは、商品化のための事前講習会や販売の現地視察などを経てアイデアを提案、採択されたアイデアはさらに出展業者と商品化に向けた試作や検討を重ねていきました。出展業者からアドバイスを受け

ながら販売価格や販売個数も学生が設定し、販売促進のための商品パッケージやPOPの作成などにも取り組みました。

当日は、「毎年楽しみにしている」という地元サポーターや、対戦相手熊本への郷土食をアレンジした商品に歓声をあげる熊本サポーターの方など、多くの方々にお買い求めいただき、全ての商品が完売となりました。

イスラエルからの シニア旅行者と料理体験実習

地域の高齢者交流スペースを運営するシルバーカフェより、イスラエルからのシニア旅行者との交流事業において料理体験実習指導の依頼があり、10月22日に松本合同庁舎の調理室等で実施しました。

はじめに「長生き日本、長生き長野県の特徴」と題した講話を行ったあと、グループに分かれてシルバーカフェのメンバーとイスラエルの方と一緒に、「おにぎり」「きのこ汁」「凍み豆腐粉の炒り煮」の3品を作りました。



イスラエルの旅行者とおにぎり作り

各テーブルには英語メニューが1枚置かれていましたが身振り手振り日本語でおおよそのコミュニケーションが成立し、両国の高齢者の交流会は大変な盛り上がりとなりました。試食会の後は笑顔が溢れる撮影会となり、2時間程の滞在時間はあっという間に過ぎました。

宗教等の関係で料理には肉、魚、卵、魚介ダシも不可との条件があり、事前の打ち合わせで悩みましたが、料理での国際交流という貴重な体験の場となりました。

運動面での健康づくり支援活動

健康運動指導士スタッフ 赤津 恵子

施設通所者と レクリエーション

朝日村と山形村の精神障がい者施設に通所する方々の、運動不足になりがちな日常生活に少しでも運動を取り入れたいと両村から依頼があり、10月4日に朝日村体育館でレクリエーションを実施しました。11人の参加者が青チームと赤チームに分かれ、ぞうきんしほり、ワンバウンドパスやディスクッターで競争しました。競争となると皆さん夢中になって取り組みます。この日は車椅子の方も参加さ

れ、楽しい軽い動きで運動不足を解消しました。参加者からは「時々やりたい」「いい汗かいた」との声を頂きました。



ぞうきんしほりゲームで、どれだけ絞れたかタオルを計測

地元地区のイベントで体力測定

新村公民館から、11月26日の新村地区のイベントで体力測定のコーナーを受け持つほしいとの依頼があり、受託しました。芝沢体育館に大勢の区民が参加して開催されるレクリエーション大会です。会場に大学の体組成計や脚筋力測定機といった専門機器を持ち込み実施しました。スポーツ健康学科の3,4年生10人がそれぞれの測定機器を分担しました。レクリエーションにはおよそ50人が参加し、その中で体力測定をされた方は20人でした。あらかじめ公民館から新村地区の各

家庭に案内ちらしを配布してあったため、この体力測定だけを目標で来場する方も何人かいました。参加された方の中には、初めて体験する脚筋力測定機で脚力が平均より衰えている数値を見て驚いている方もいました。体験者からは「これから筋トレをがんばるのでぜひ来年も実施してほしい」等のご要望を、参加した学生からは「地域のお役に立てたことに満足した」「少しでも健康に興味を持ってもらえてうれしい」「現場体験で一層学びが深まった」等の感想が寄せられました。



2チームで対抗ゲーム



学生が測定結果を熱心に解説

皆さまのお近くで、学生や専門スタッフ(管理栄養士・健康運動指導士)が
お手伝いできることがありましたら、是非お声をかけてください。

第51回「梓乃森祭」—荒天の予想を覆し、無事開催—

全学学生委員長 矢崎 久

10月14日、15日の2日間、第51回目となる「梓乃森祭」が開催されました。今年度の大学祭のテーマは、「A New Beginning—トビラのその先は—」。季節外れの大型台風の接近により天候が心配されましたが、学生達の若々しいエネルギーが天気をも動かしたのか、開いたトビラのその先には、学舎が陽光に煌いていました。

年々歳々、大学祭が終了すると程なく次の大学祭を担う学生役員が選出され、新たなメンバーにより創りあげられた新たな大学祭を迎えることができます。一見するとあたりまえであるかのような連続としたこの日々裏側に、幾多の失敗や泣き笑いの姿があることを垣間見るにつけ、「目標に向かう若々しい力の束は、不可能を可能にする」「人は変化し成長する」という私の思いは強く深くなり、同時に、本学での泣き笑いの日々が学生にとって、社会の荒波に揉まれつつも地域社会に貢献してゆける人となる原動力となっていることを確信しました。

今年の「梓乃森祭」では、次世代を担う子ども達の成長を願う各種イベント、日頃の学修成果を伝えるゼミ展示、地域と学生の連携成果発表、4月より発足した教育学部の先生や学生によるチーム形式での展示や発表会などの文化の彩りに、趣向を凝らしたさまざまな模擬

店の華が添えられて、これまでにはない拡がりを予感することができたと感じたのは私だけでしょうか。

学生が、かくも遅くも変化し成長してゆけるのは、ひとえに、松本大学ならびに松本大学松商短期大学部の教育を応援し、支えてくださる地域住民の方々のあたたかいお力添えがあったからこそと感謝しております。ありがとうございました。



大学祭終了後、集合写真に収まる実行委員のメンバー

第8回(平成29年度)学長賞受賞者・団体

学術・芸術・社会・体育・文化活動において他の模範となる成績をおさめ、または社会に貢献した学生、団体を表彰する「学長賞」の授賞式が、第51回「梓乃森祭」の中で行われました。受賞者と受賞機関は以下のとおりです。



赤津 力也 (松商短期大学部2年：課外活動)

第50回全国私立短期大学体育大会男子バドミントンシングルス第3位
2017年度長野県私立短期大学体育大会男子バドミントン団体優勝

常盤 大智 (総合経営学部4年：課外活動)

第86回日本学生陸上競技対校選手権大会男子200m準決勝進出
第39回北日本学生陸上競技対校選手権大会男子200m優勝

女子ソフトボール部 (課外活動)

創部以来12年連続北信越インカレ優勝および
日本インカレ出場の偉業を達成。
今年度は日本インカレベスト8入りを果たす。

茶道部 (課外・社会活動)

40年以上にわたり、本学や地域の国際交流事業において茶道を通じた日本文化の紹介や異文化交流を積極的に行った。

》道の駅「中条」を拠点とした地域活性化

総合経営学科 教授 清水 聡子

キャンパスを飛び出し
地域で学ぶ!

out campus study

アウトキャンパス・スタディ



種まき後、無事に実った西山大豆の畑にて

松本大学と長野市道の駅「中条(なかじょう)」及び長野国道事務所は、2015年度より長野県初の産学官連携事業を開始しました。連携企画の実施にあたり、本学と道の駅「中条」指定管理者アクティオ株式会社は事業連携・推進に関する協定を締結しております。道の駅「中条」を拠点とした地域づくりと地域活性化を図ることにより、地域の発展と学生教

育に寄与することを活動の目的としています。

道の駅のある旧中条村(長野市中条)は山姥伝説の里として知られています。清水ゼミの学生は「88(やまんば)プロジェクト」を立ち上げ活動を続けており、今年度

は5月22日にキックオフ・ミーティングを行い、6月18日、10月22日、11月3日の計3回、道の駅「中条」でアウトキャンパス・スタディを実施しました。学習の内容としては①地域の特産物「笹おやき」の製造工程を学ぶ②地域の特産物「西山大豆」を遊休農地に種まき③中条地域の子どもたちと「スタンプラリー」を実施、そしてさらに④およそ5,000名が来場した長

野市中条地域最大のお祭り「むしくらまつり」において、改良した「西山大豆おからドッグ」を販売し、今年度新たに学生が考案した「西山大豆豆乳スープ」をふるまいました。

総合経営学部増尾均学部長、総合経営学科矢崎久学科長、室谷心教授、成者政教授、小林俊一教授、赤羽雄次管理課長の協力のもと、清水ゼミ・成ゼミ・小林ゼミ生、教育指導入門の受講生がアウトキャンパス・スタディに参加し、下内光雄道の駅「中条」施設長を中心とした中条地域の皆様と意見交換しながら中条地域の課題について検討する課題解決型学習(Project-Based Learning)を実施しています。松本大学総合経営学部では「地域の学びを通して社会の最前線で活躍する人になる。」をモットーに、学生が地域に羽ばたきはじめています。

防災士養成研修講座に107人

10月21日、22日の2日間、日本防災士機構認定の松本大学防災士養成研修講座を開催し、学生・社会人等107人が受講し、減災・防災に関する専門的な知識を学びました。

ワークショップでは「災害図上訓練DIG(ディグ)」を通して、被害想定、対応行動等のケーススタディを体験し、県内外の社会人受講生とともに学んだ学生たちからは、「社会人の方から貴重な話を聞くよい機会となり勉強になった」との声もありました。



災害図上訓練(DIG)の様子

本講座により身につけた知識と実践力を活かし、地域社会における防災機能向上の担い手として、活躍の場が広がることを期待します。

(管理課長 赤羽 雄次)

災害時避難訓練 新村地区と合同で



新村地区の方と。無線機を届ける場所を入念に確認

松本大学の第1体育館と5号館は新村地区の指定避難場所になっています。従って、災害時には本学学生のみならず地区住民の方々も本学に避難し集まることとなります。ここ数年、本学の災害時避難訓練は地元新村

地区と合同で実施し、また、平成28年度より「実際の災害を想定した訓練」を行っています。今年は11月10日(金)、

「平日」実施を試みました。土日祝日と平日とでは学校にいる学生の数も行動形態も異なります。地区においても同じです。マニュアルに沿った見直しを今後も訓練によって積み重ねていく予定です。

(危機管理委員会 尻無浜 博幸)

第13回吹奏楽公開クリニック 中高生が多数参加

12月2日、吹奏楽のミニコンサート&公開クリニックを、吹奏楽界の第一線で活躍する演奏家7人の協力を得て開催しました。

地域貢献の一環として始めたこのイベントも、今年で13回目。ミニコンサートでは、プロならではの見事な調和の取れた演奏で、アンサンブルコンテストでもよく用いられる「テルプシコーレ舞曲集」が披露されました。その後の公開クリニックには9校から中高生135人が

参加し、多くの団体は近く開催されるコンテストに向けて、講師・生徒ともに熱のこもったレッスンが行われました。

この公開クリニックが、コンテストでの成功や今後の活動の一助となることを願っています。(教務課長 赤羽 研太)



プロの奏者による個別レッスン

外部評価委員会を開催 松本大学と松商短期大学部

松本大学は10月25日、平成29年度の外部評価委員会を開催しました。外部評価委員は教育行政、自治体、高等学校、企業、地域の代表者5人で構成。本学からは、住吉学長と等々力副学長、山田研究科長、各学部長、柴田事務局長らが出席、本学の取り組みや中期目標・計画について説明し意見交換を行いました。

また、松商短期大学部は10月4日にAP事業(文科省大学教育再生加速プログラム)に関する外部評価委員会を、さらに10月25日には短大部全体の取り組みに対する外部評価・助言委員会を開催しました。委員を依頼している他大学の教職員、地元企業の経営者、高校教員、同窓会関係者から助言を受けました。(事務局長 柴田 幸一)

FD・SD研修会

「高大接続改革(大学入学者選抜試験の改革)に向けて」

本年度第4回となる全学FD・SD研修会を、入試委員会との共催で、12月4日、811教室において開催しました。今回は、(株)KEIアドバンスのコンサルティング部長である神部悟氏をお迎えして、文部科学省が進める高大接続改革である大学入試の改革の現状と各大学がこれから取るべき対応についての講演でした。2020年度実施の2021年度入試から始まる、現在の「大学入試センター試験」に替わる「大学入学共通テスト」の実施に

ともない、本学が取り組むべき入試改革の具体的なポイントを明確にする上で、非常に意義のある研修会となりました。

(FD・SD運営部会 山添 昌彦)



第1回松本マラソン 学生がボランティアで活躍

10月1日、好天に恵まれた第1回松本マラソンに、本学から運営ボランティアとして87人の学生が参加してきました。ランナーから預かった荷物をフィニッシュ会場で返す手荷物渡し係の係りは、朝8時に集合。参加ランナーは8000人を超え、ひと班で800

個余りもの荷物を担当します。ランナーがゴールし始めた10時半頃に荷物の受け渡しが始まってから最終午後3時前まで、「〇〇番」と呼ぶ人、探す人、渡す人とフル稼働でテキパキと動いていました。終わってみれば一瞬でしたが「いろいろな大会に参加されているんですね」「お疲れ様でした」などと声をかけ、様々な出会いがありました。学生達は、完走した人、途中で断念した人を見送りながらそれぞれの思いをはせていました。



手荷物渡し係の学生達と

(スポーツ健康学科 専任講師 中島 節子)

発達障害のある児童生徒の支援に関する長野県との懇談会

10月31日、標記の懇談会が本学で開催され、長野県から教育委員会ほか関連部局の担当者計8人が教育学部を訪れました。長野県では、発達障害のある人々に対し全ライフステージを通じて医療・福祉・教育・労働等の分野で一貫した支援を行うことを目的に各種施策が推進されています。懇談会では、教育学部のディプロマポリシー、特別支援教育コースを含む教員養成カリキュラムの特色、社会進出支援セ



ンターの設立主旨等について説明が行われた後、県の取り組みの現状と課題が報告されました。最後に、発達障害がい児(者)の支援における連携と協働の必要性を双方で確認しました。

(学校教育学科 教授 小島 哲也)

松商短期大学部前期成績優秀者を表彰

松商短期大学部では、学期末試験の成績における素点平均が高く、履修科目数などの基準を満たした学生上位10人を学業成績優秀者として表彰。今年度も2年生10人1年生10人の計20人が「学業成績優秀賞」を受賞し、

9月28日、大会議室にて住吉廣行学長より表彰状が手渡されました。



男子サッカー部

男子サッカー部、悲願のインカレ初出場!

男子サッカー部は、平成29年度北信越大学サッカーリーグ1部で2位(10勝4敗)となり、創設11年目にして初の全日本大学サッカー選手権大会(インカレ)への出場権を獲得することができました。もちろん、現部員たちの努力によって勝ち取った出場権ですが、OB・OGIによるこれまでの積み重ねなくてはなし得ることができなかったものです。彼ら彼女らは、後輩たちの活躍を自分たちのことのように喜んでくれていました。加えて、大学関係者をはじめ多くの方々から、今日まで多大なご支援やご声援をいただきました。このような思いの集積によって、悲願を達成できたのだと実感しています。本当にありがとうございました。

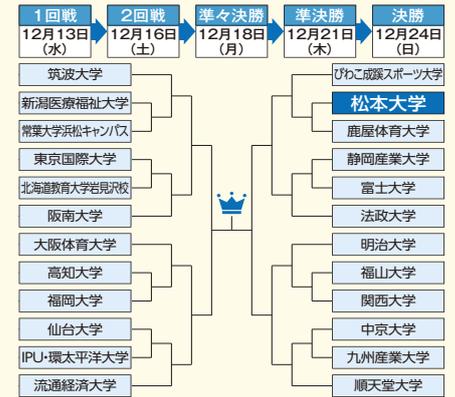
さて、我々は創部当初より「Love the ball.」とスローガンを掲げ、やっている本人はもちろん、

見ている人も楽しめるサッカーを追求してきました。そして、選手が培ってきた技術や各自のイメージを最大限に尊重し、選手が持っている力を引き出すための“自由な場づくり”を大切にしてきました。また、昨年度からは松本山雅FCの全面的なご協力で、監督に岸野靖之氏を迎え、チームに“岸野魂”が注入されたことで一層力をつけることができました。

それとともに、社会に出る一歩手前の、人生の中でも非常に重要な大学時代を過ごす場所として、部員たちが他ではない“ここ”を選択した、その意味付けを指導者として模索してきました。平日週4回、7時20分から朝練習を行っています。実家の遠い部員は5時台に自宅を出て通ってきます。日中はもちろん授業、放課後は多くの部員がアルバイトをし、中には自分で学費等の一部を

稼ぐ部員もいます。また、親元を離れて一人暮らしをする部員も多数おり、帰宅後に練習着の洗濯や炊事等の家事をこなし、寝て起きてまた練習という毎日を繰り返す。週末の休みもほぼない。この

平成29年度 第66回全日本大学サッカー選手権大会



ような状況の中でも部員達は、日常生活もしっかりと送り、友人や恋人との大学生活も満喫して、そのうえでサッカーにも本気で取り組む。こうした忙しい毎日を送る中で社会へ出るための準備をし、その後の人生で活躍するためのエネルギーをしっかりと蓄えさせて大学から送り出したい、そんなことを願いながら活動を続けてきました。

12月13日、9年連続21回目の出場となる九州の強豪、鹿屋体育大学との1回戦を迎えます。これまで築き上げてきた自分たちのスタイルを貫き、松本大学のサッカーを全国に発信する第一歩となる試合にしたいと思います。ご声援をよろしくお願いいたします。

(2017.12.8記 男子サッカー部 部長兼総監督 齊藤 茂)



硬式野球部

硬式野球部秋季リーグ戦結果

関甲新学生野球連盟2部秋季リーグ戦が終了しました。今季から2戦先勝の勝ち点制となり、結果は勝ち点4(8勝6敗)の第2位という成績でした。1部リーグ昇格を目標に掲げ臨んだシーズンでしたが、目標には届かず悔しい思いをしました。多くの試合で第1戦目を勝てずに苦しい展開が続きましたが、粘り強く勝ちを重ね、勝ち点4を獲れた事は来期に繋がる部分であったと思います。しかし優勝校との差は大きく開いており、自チームを分析する

と数字上、ここ数年の得点力は1試合平均3.8点、平均失点3.6点。優勝ラインに届くには平均得点力を2点増、平均失点を1点以上減らす必要があります。決して簡単なことではありませんが、投手・野手共に多くの課題を持ってこの冬の練習に取り組み、足りない部分を補いチーム全体の底上げをしていきます。また平日頃の生活面を再度見直し、野球以外の面も磨き、さらにチームとして

平成29年度 関甲新学生野球連盟 秋季リーグ戦

順位	大学名	平国大	松本大	常磐大	新潟大	埼玉大	茨城大	勝	負	勝点
1	平国大	-	○9-2 ○4-2	○11-6 ○5-3	●2-4 ○11-4 ○8-0	○13-3 ○10-0	○13-0 ○6-2	10	1	5
2	松本大	●2-9 ●2-4	-	○2-0 ○1-4 ○8-5	○1-0 ●2-4 ○9-0	●2-5 ○8-0 ○1-0	●3-4 ○3-2 ○14-4	8	6	4
3	常磐大	●6-11 ●3-5	●0-2 ○4-1 ○5-8	-	○12-7 ○4-0	○2-1 ○2-0	○10-2 ○3-1 ○14-4	7	5	3
4	新潟大	○4-2 ○4-11 ●0-8	○0-1 ○4-2 ○0-9	○7-12 ○0-4	-	○4-1 ○9-2	○0-1 ○4-3 ○11-4	6	7	2
5	埼玉大	●3-13 ●0-10	○5-2 ○0-8 ○0-1	○1-2 ○8-7 ○0-2	○1-4 ●2-9	-	○3-1 ○12-5	4	8	1
6	茨城大	○0-13 ●2-6	○4-3 ●2-3 ○4-14	○2-10 ○1-3	○1-0 ○3-4 ○4-11	○1-3 ○5-12	-	2	10	0

の徹底力を備え、野球部員としても、人としても成長していくよう努力し、「勝つチーム」を全員で作っていきます。沢山の応援、ありがとうございました。(硬式野球部 監督 清野 友二)

陸上競技部

郷土の期待を胸に陸上競技部員が力走 ～第66回長野県縦断駅伝競走大会～

晩秋の信濃路を彩る風物詩で、中学生から社会人までが集う「第66回長野県縦断駅伝競走大会」が、11月18日、19日の2日間、長野市から飯田市までの22区間217.5kmで行われ、15チームが1本の襷をつなぎました。本学陸上競技部からは、小松晃人君(スポーツ健康学科1年)が、塩尻東筑木曾(塩尻市・東筑摩郡・木曾郡)の代表として第8区(10.2km)に出場しました。

やや肌寒いコンディションではありましたが、長和町から白樺湖へと抜ける高低差約350mのきつい上り坂を区間8位と力走。今回で3回目の出場となった小松君は、「チームに貢献できたと思う反面、もう少し前との差を詰めたかった。もっと練習して来年以降も郷土の期待に応える走りをしたい」と振り返りました。

なお、卒業生からは中村祐紀さん(2007年度卒:観光ホスピタリティ学科)が安曇野市チームで、早野吉信さん(2010年度卒:同)が飯田下伊那チームから出場したことをここに追記致します。

(陸上競技部 顧問 白澤 聖樹)

本校図書館に入っすぐ右手に、ダンボールで作られた地味なブックポストがあります。「あなたの古本をご寄付ください」とあり、続けて、「買い取り金額は石巻市大街道小学校の松大生ボランティア費用に活用します」と小さく書かれています。

ここに入れられた本は、上田市にある古書店バリューブックス(以下、VB)が買い取ります。本学との間で結ばれた協定により、その代金は本学に支払われ、ボランティア活動に活用されているのです。

もう読まないけれど、捨てることもできずに

いる本があります。復興支援に少しでも役に立ちたいけれど、何をしたらいいかわからないという気持ちがあります。どちらも悩ましい人情です。それをつないで、寄付した本が復興支援につながる仕組みを作ったのがVBです。

企業と消費者双方が、本の活用を通して社会貢献に関わることをも実現したビジネスモデルと言えます。図書館のほか、4号館総務課前にもポストはあります。小さな社会貢献に参加してみませんか？

最近VBは、何年経っても読み継がれる本を出している出版社と契約を結び、その会社の

本を売ったら、売り上げの一部を出版社に還元し、次の本に繋げてもらうという信じられない取り組みも始めました。本の価値を知り、本が社会に存在し続けてほしいという願いあつてのことです。こういう企業理念を持った企業に、学生の目を向けたいものと思います。

私たちの年代では当たり前だった、通勤通学の電車内で本や雑誌を手に入れている光景は、スマホに取って代わられました。以前、ある大学の学長が入学式で、スマホを捨てるか大学をやめるかと問題提起したのは記憶に新しいですが、今もその大学のほとんどの学生はスマホを持っているようです。

社会から学ばなければならないこと、あまりにも多いと思ひ続けております。

2018年度 入試日程

■ 総合経営学部 (総合経営学科/定員90名、観光ホスピタリティ学科/定員80名)

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	総合経営	観光ホスピタリティ					
一般	一般A	18	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 9日 (火) ~ 1月 26日 (金)	2月 3日 (土) 2月 4日 (日)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)
	一般B	3	松本大学	2月 5日 (月) ~ 2月 16日 (金)	2月 23日 (金)	3月 1日 (木)	3月 8日 (木)
	一般C	2	松本大学	2月 26日 (月) ~ 3月 9日 (金)	3月 14日 (水)	3月 19日 (月)	3月 26日 (月)
センター	センター利用Ⅰ期	8	松本大学	1月 9日 (火) ~ 2月 2日 (金)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)	2月 20日 (火)
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学	2月 5日 (月) ~ 2月 21日 (水)	3月 1日 (木)	3月 8日 (木)	3月 8日 (木)
	センター利用Ⅲ期	2	松本大学	2月 26日 (月) ~ 3月 12日 (月)	3月 19日 (月)	3月 26日 (月)	3月 26日 (月)
その他	留学生後期	若干	松本大学	2月 5日 (月) ~ 2月 16日 (金)	2月 23日 (金)	3月 1日 (木)	3月 8日 (木)

■ 人間健康学部 (健康栄養学科/定員70名、スポーツ健康学科/定員100名)

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	健康栄養	スポーツ健康					
一般	一般A	18	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 9日 (火) ~ 1月 26日 (金)	2月 3日 (土) 2月 4日 (日)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)
	一般B	3	松本大学	2月 5日 (月) ~ 2月 16日 (金)	2月 23日 (金)	3月 1日 (木)	3月 8日 (木)
	一般C	若干	松本大学	2月 26日 (月) ~ 3月 9日 (金)	3月 14日 (水)	3月 19日 (月)	3月 26日 (月)
センター	センター利用Ⅰ期	10	松本大学	1月 9日 (火) ~ 2月 2日 (金)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)	2月 20日 (火)
	センター利用Ⅱ期	3	松本大学	2月 5日 (月) ~ 2月 21日 (水)	3月 1日 (木)	3月 8日 (木)	3月 8日 (木)
	センター利用Ⅲ期	若干	松本大学	2月 26日 (月) ~ 3月 12日 (月)	3月 19日 (月)	3月 26日 (月)	3月 26日 (月)

■ 教育学部 (学校教育学科/定員80名)

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	スカラシップ	一般					
一般	スカラシップ	7	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 9日 (火) ~ 1月 26日 (金)	2月 3日 (土) 2月 4日 (日)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)
	一般A	20	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 9日 (火) ~ 1月 26日 (金)	2月 3日 (土) 2月 4日 (日)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)
	一般B	2	松本大学	2月 5日 (月) ~ 2月 16日 (金)	2月 23日 (金)	3月 1日 (木)	3月 8日 (木)
センター	スカラシップ	3	松本大学	1月 9日 (火) ~ 2月 2日 (金)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)	2月 20日 (火)
	センター利用Ⅰ期	10	松本大学	1月 9日 (火) ~ 2月 2日 (金)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)	2月 20日 (火)
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学	2月 5日 (月) ~ 2月 21日 (水)	3月 1日 (木)	3月 8日 (木)	3月 8日 (木)

■ 松商短期大学部 (商学科・経営情報学科/各学科 定員100名)

試験区分	募集人員		会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
	商	経営情報					
一般	一般A	6	松本大学・東京・名古屋・新潟・甲府・那覇	1月 9日 (火) ~ 1月 26日 (金)	2月 3日 (土)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)
	一般B	2	松本大学	2月 14日 (水) ~ 2月 26日 (月)	3月 2日 (金)	3月 6日 (火)	3月 15日 (木)
	一般C	2	松本大学	3月 5日 (月) ~ 3月 15日 (水)	3月 20日 (火)	3月 23日 (金)	3月 28日 (水)
センター	センター利用Ⅰ期	6	松本大学	1月 9日 (火) ~ 2月 2日 (金)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)	2月 20日 (火)
	センター利用Ⅱ期	2	松本大学	2月 14日 (水) ~ 2月 28日 (水)	3月 6日 (火)	3月 15日 (木)	3月 15日 (木)
	センター利用Ⅲ期	2	松本大学	3月 5日 (月) ~ 3月 15日 (水)	3月 23日 (金)	3月 28日 (水)	3月 28日 (水)
その他	留学生後期	若干	松本大学	2月 5日 (月) ~ 2月 16日 (金)	2月 23日 (金)	3月 1日 (木)	3月 8日 (木)

■ 松本大学大学院健康科学研究科健康科学専攻 (一般・社会人共通)

試験区分	募集人員	会場	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
大学院 後期	3	松本大学	1月 9日 (火) ~ 1月 26日 (金)	2月 4日 (日)	2月 13日 (火)	2月 20日 (火)

受験前の疑問を解決 入試相談会

[日時] 2018年1月20日(土)、21日(日) 10:00~15:00

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問い合わせください。

www.matsumoto-u.ac.jp ☎0120-507-200

編集後記

昨年7月に天皇陛下が生前退位のご意向を示され、今年12月8日の閣議で、退位の日程を定める政令を決定するとの発表がありました。「平成」は2019年(平成31年)4月まで、2019年5月1日からは新年号になります。「平成」の年号もあと1年と4カ月余り。時をほぼ同じくして高大接続改革で大学入試も大きく変わろうとしており、新年号になる頃には新大学入学者選抜要項が発表になります。

今年も大学を取り巻く環境は大きく変化し厳しいものがあります。しかし本学は教育学部の開設や私立大学ブランディング事業の選定など、盛り多き一年でした。

来る年もさらにステップアップする年になりたいと心躍る平成29年の年末です。

(記・入試広報室長 中村 文重)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp